

( 報告書様式 C )

【フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県 愛知県

・学校の概要 (平成15年4月現在 実施計画書から転載可)

東海市立緑陽小学校 (フロンティアスクール名)										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	2	2	3	2	2	2	1	14	17	
児童数	72	69	89	64	57	70	3	424		

・実践研究の概要

1. 主題 (テーマ)

確かな学力を身につけ、生き生きと授業に取り組む児童の育成  
- 個に応じた指導のための教材の工夫を通して -

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科 (選択した理由を付すこと)

3年生～6年生算数

系統性が明確であり、新しい内容を学習する際には、それまでに学習してきたことを基にして、発展させるように学習を進めることが多い。そのため習熟度に差がしやすい。また、答えが明確なため、「できた」「できない」がはっきりしている。だからこそ、できない悔しさを味わい続けると次第に意欲はなくなってしまう。このため、より多くの児童に確実に理解させる必要がある。しかし、学級内の習熟度の差が大きいと多くの児童に理解させることが困難であるためこの方法を取り入れることにした。

(2) 年次計画

平成14年度

テーマ

「個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善」

仮説

習熟度の差が小さくなるような学級編制をし、学級の実態に合った教材の工夫や指導の展開を考えれば、児童は授業を理解し、できた喜びを味わい、生き生きと授業に取り組み、学力は向上するであろう。

平成14年度

研究内容・方法

- ・ 算数における習熟度学級編制による少人数指導
- ・ 学級をある期間固定することにより，学級内に一人一人の安心感と存在感を作り，活発な意見交換による授業の実現
- ・ 各学級の実態に合った，単元全体や1時間の授業展開の工夫（単元の指導計画，学習過程案の作成）
- ・ 保護者・児童へのアンケート調査による意識の変容調査
- ・ 教育課程状況調査による学力調査
- ・ 自校作成による学力テストによる学力調査
- ・ 観点別絶対評価による「満足できる状況」「十分満足できる状況」の児童の割合の変容調査

平成15年度

テーマ

「発展的な学習や補足的な学習など個に応じた指導のための教材の工夫」

仮説

- ・ 児童のつまずきの分析とその治療的指導法の工夫をすれば，個々の実態に応じた補足的な指導ができ，学力が向上するであろう。
- ・ 児童の知的好奇心を刺激するような教材や課題を開発すれば，児童は興味をもって課題を追求し，既習の知識を生かす力が育ち，さらに学力は向上するであろう。

研究内容・方法

- ・ 児童のつまずきの分析
- ・ つまずきに合わせた指導方法，教材・教具の開発
- ・ 発展的な学習についての教材の開発と指導方法
- ・ 年度当初に行う「学力テスト」「知能テスト」による学力・知能の変容調査

平成16年度

テーマ

「児童の学力の評価を生かした指導法の研究」

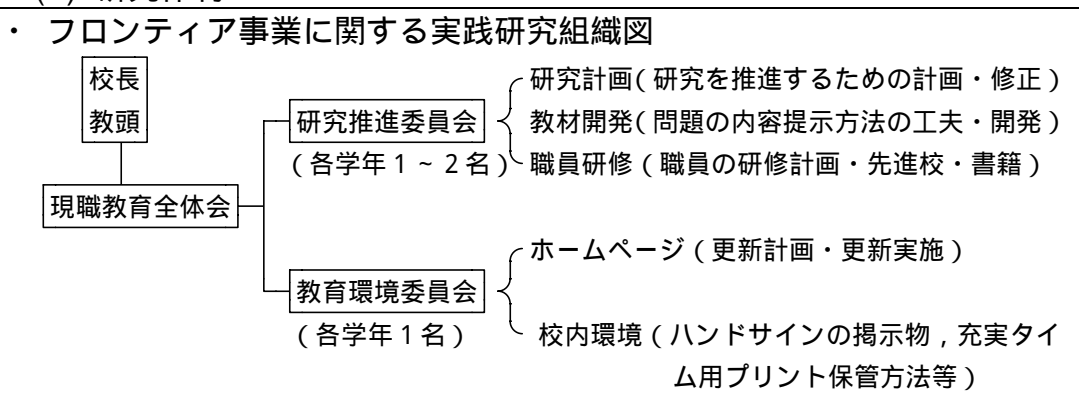
仮説

観点別の絶対評価と個人内の評価の基準，評価の時期と方法を明確にして評価を行い，つまずきに合わせた指導を行えば，児童一人一人の学力は向上するであろう。

研究内容・方法

- ・ 学力（「知識・技能」「知識・技能を主体的に活用する力」「思考力や判断力」「表現力」「意欲・態度」）の評価規準と評価基準，評価時期，評価方法を決め，実践する。
- ・ 評価結果をもとにつまずきの対策を考え，実践し，その効果を検証する。
- ・ 年度当初に行う「学力テスト」「知能テスト」による学力・知能の変容調査

### (3) 研究体制



### ・ 平成15年度の成果及び課題

#### 成果

- ・ アンケート結果からも分かるように、算数科における習熟度別少人数指導が児童、保護者に受け入れられることが明らかになった。
- ・ 「進め方が自分に合っている」と答えている児童が多いことから、各コースにおける指導の基本的な手立てが有効であることが明らかになった。
- ・ 単元の学習計画案を作成し学習問題を工夫したことにより、児童の実態に即した学習の流れで授業を進めることができ、生き生きとした学習活動が行われるようになった。

#### 算数のNRT（全国標準診断的学力検査）の5段階評定の推移

(%)		1段階	2段階	3段階	4段階	5段階
3年	2年生時	15	25	34	24	2
	本年	6	13	39	41	1

(%)		1段階	2段階	3段階	4段階	5段階
4年	2年生時	15	21	31	33	0
	3年生時	13	23	35	29	0
	本年	14	8	40	38	0

(%)		1段階	2段階	3段階	4段階	5段階
5年	2年生時	24	14	44	19	0
	4年生時	14	17	37	32	0
	本年	2	28	26	39	5

(%)		1段階	2段階	3段階	4段階	5段階
6年	2年生	23	15	28	31	3
	4年生	24	23	24	27	1
	5年生	13	17	21	32	7
	6年生	12	19	22	28	20

課題

- ・各コースの児童の思考の深まりに対応する指導方法をコース別に確立する。
- ・習熟度別少人数指導における効果的な評価規準と評価カードの作成をする。

・学力把握のための学校の取り組みについて

(例：定期的な学力調査の実施(年1回)等)

- ・年度当初に行う学力テスト(2～6年)と知能テスト(2・4・6年)
- ・年度末に5・6年生は教育課程状況調査を実施する予定
- ・年度末に1～4年生は校内で問題を作成し、学力テストを実施する予定
- ・年度末にコミュニケーション能力のアンケート調査を児童に実施

・フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・平成15年10月31日(金) 13:00～16:30
- ・学力向上フロンティア事業中間発表会
- ・対象：全国
- ・ホームページ(<http://www.ryokuyo-e.aichi-c.ed.jp/>)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	